

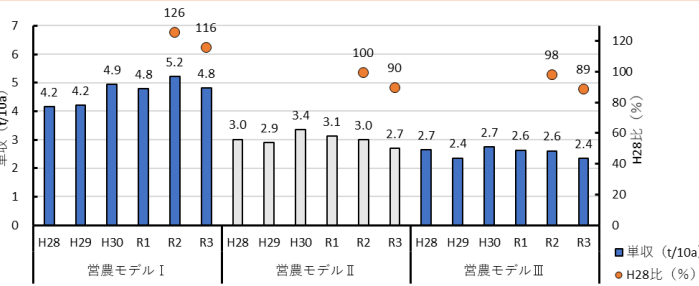
- **担い手不足の解消、所得向上のため、産地振興計画を策定**。世代別営農モデルの作成、具体的数値目標を設定し、関係機関と進捗管理を実施。
- 環境制御技術により高単収をめざす営農モデルⅠ生産者への導入支援により、**R4年度の炭酸ガス発生装置導入面積は6.1ha(全面積の54%)**と、H29年度の3.3haより**2.9ha増加**。併せてパッケージセンターの選果速度改善。
- **統合環境制御装置や自動灌水の導入と環境制御技術の勉強会活動により、単収が18%増加**(H29年産3,740kg/10a → R4年産4,430kg/10a)。

具体的な成果

1 世代別営農モデルの実現

■ 高単収をめざす営農モデルⅠ生産者への環境制御技術導入を推進し、環境制御勉強会会員は、R3年度24名 → R4年度37名へ増加。
営農モデルⅠにおいては、単収目標を達成。

区分	単収	単価	所得率	面積	農業所得	R3単収実績 (R3/H28)	R3販売額実績 (R3/H28)
営農モデルⅠ (34戸)	6.0t/10a	1,250円/kg	40%	24a/戸	660万円/戸	4,817kg/10a (116%)	13,082千円/戸 (116%)
営農モデルⅡ (22戸)	4.5t/10a	1,250円/kg	45%	19a/戸	456万円/戸	2,697kg/10a (90%)	5,715千円/戸 (101%)
営農モデルⅢ (15戸)	モデルⅡをベースに、省力技術の導入により1年でも長く栽培を継続する65歳以上の土耕栽培者					2,350kg/10a (89%)	3,752千円/戸 (76%)



2 労力支援体制確立支援

■ 既存パッケージセンターは選果速度が遅く、利用料金も高いため、利用者数が伸び悩んでいた。このため、他地区情報調査や**運営見直しに向けた協議を実施し、選果速度・人件費を改善。**
(R3年実績)

- ・佐世保 人件費 29.4円/パック(前年比81%)
 選果速度 29.4パック/時間(前年比149%)
- ・平戸 人件費 49.0円/パック(前年比91%)
 選果速度 15.3パック/時間(前年比112%)

3 新規栽培者の確保・育成

■ 若者に選ばれる魅力ある品目となり、**新規就農者は増加傾向。**
 特に、地域外からの就農や、農外からの就農者が増加。
※非親元就農者数：6名(H29～R4の8年間)

普及指導員の活動

1. 関係機関との連携会議

各種課題について担当者会、部会役員会等で協議を実施。
 決定事項や振興計画の進捗を部会出荷協議会等で説明。

2. 環境制御技術確立支援

初心者向け・2年目以上向け環境制御技術勉強会、研修会を開催。
 併せて統合環境制御装置の導入支援を実施。

3. いちご栽培対策支援

適期管理指導、病虫害防除対策指導、アザミウマ天敵導入に向けた実証試験や、光反射資材の展示ほを設置。



↑ パッケージセンター(平戸)
 光反射資材展示ほ →



普及指導員だからできたこと

- ・産地振興計画の進捗共有を行い、JA・市との連携を密にすることで、産地維持にむけた体制を確立できた。
- ・県内外の先進的な取組をいち早く把握し、視察研修や講師招聘などを実施し、技術の高度化による単収向上を実現。

産地振興計画に基づく魅力あるいちご産地づくり

活動期間：令和3年度～（継続中）

1. 取組の背景

平成29年から環境制御技術の普及を進めた結果、技術導入した生産者が単収向上する事例が見られた。そこで、令和2年度に、JAながさき西海いちご部会にて生産者の世代別に目指す営農モデルを設定し、生産者を営農モデルⅠ（環境制御技術により高単収をめざす経営体）33戸、Ⅱ（環境制御機器の整備はしないが、平均単収以上をめざす経営体）21戸、Ⅲ（1年でも長く営農する高齢農家）12戸に区分し、営農モデルⅠを環境制御技術普及の対象とした。

また、JAながさき西海が生産者の労力軽減のため、平成28年に平戸で、平成29年に佐世保で開設したいちごパッケージセンターは取扱量が伸び悩んでいたため、運営の見直しと改善が望まれていた。

そこで、営農モデルⅠへの環境制御技術の普及、営農モデルⅠおよびⅢへ省力技術の推進とともに、営農モデルⅠの規模拡大および新規就農者の定着支援により産地活性化を図ることとした。

2. 活動内容（詳細）

1) 関係機関との連携会議

各種課題について担当者会、部会役員会、等にて協議を実施、決定事項や振興計画の進捗を部会出荷協議会等で説明。

2) 環境制御技術確立支援

環境制御技術学習組織『きゃもん会』を設立し、初心者向け・2年目以上向け環境制御技術勉強会、研修会を開催。また、統合環境制御装置の導入支援も行った。

3) いちご栽培対策支援

適期管理指導、病虫害防除対策指導、アザミウマ天敵導入に向けた実証試験や、光反射資材の展示ほを設置した。

3. 具体的な成果（詳細）

1) 世代別営農モデルの実現

特に重要度の高い営農モデルⅠへの環境制御技術導入を推進し、会員は36名へ増加。産地振興計画一部モデルにおいて単収目標を達成。

2) 労力支援体制確立支援

既存パッケージセンターは選果速度が遅く利用料金も高いため、利用者数が伸び悩んでいた。このため他地区情報調査や運営の見直し協議を実施し、選果速度・人件費を改善。

（R3年実績）

・佐世保	人件費	29.4円/パック(前年比81%)
	選果速度	29.4パック/時間(前年比149%)
・平戸	人件費	49.0円/パック(前年比91%)
	選果速度	15.3パック/時間(前年比112%)

3) 新規栽培者の確保・育成

若者に選ばれる魅力ある品目となり、新規就農者は増加傾向。特に地域

外からの就農や、農外からの就農者が増加している。

※非親元就農者数：6名(H29～R4の8年間)

表 新しい世代別営農モデル

区分	単収	単価	所得率	面積	農業所得	R3単収実績 (R3/H28)	R3販売額実績 (R3/H28)
営農モデルⅠ (34戸)	6.0t/10a	1,250円/kg	40%	24a/戸	660万円/戸	4,817kg/10a (116%)	13,082千円/戸 (116%)
営農モデルⅡ (22戸)	4.5t/10a	1,250円/kg	45%	19a/戸	456万円/戸	2,697kg/10a (90%)	5,715千円/戸 (101%)
営農モデルⅢ (15戸)	モデルⅡをベースに、省力技術の導入により 1年でも長く栽培を継続する65歳以上の土耕栽培者					2,350kg/10a (89%)	3,752千円/戸 (76%)

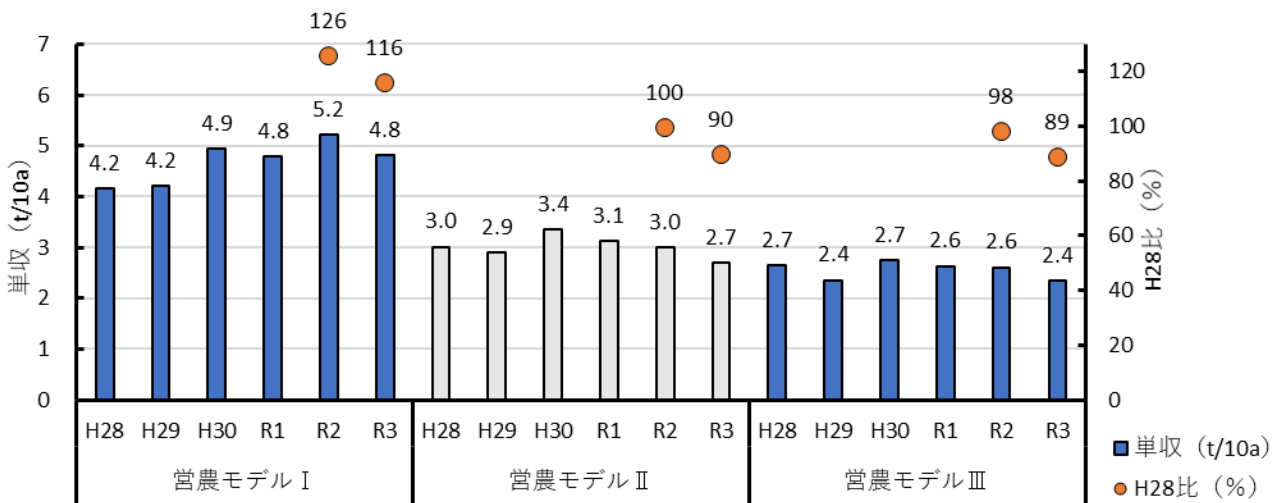


図 営農モデル別単収

4. 農家等からの評価・コメント

(JAながさき西海いちご部会部会長)

ここ3年で初期投資と経費が増加しており、意欲のある若者を応援したい気持ちはあるが、補助金なしでは安易にいちご経営を勧められないと感じる。経営力と技術力をフォローしてほしい。

5. 普及指導員のコメント (県北振興局北部地域普及課係長)

生産者部会、JA、市町担当者の連携が密にとれたことで産地振興計画の策定、進捗管理、見直しを実施することができた。特に生産者の産地維持に対する意識が高く、事業活用や新規就農者の呼び込み、フォロー体制が確立されている。

6. 現状・今後の展開等

県北地域のいちご産地振興計画の進捗管理・修正等は継続して実施する。

産地振興計画に基づく産地づくりの取り組みを同地域のいちご以外の他品目に波及させ、県北地域の野菜産地の維持・拡大を図りたい。具体的にはアスパラガスにおいて新規就農者受け入れを実施しており、体制は整っているが現状把握や今後のビジョン策定を実施する。